



碧の風

千葉市立川戸中学校
校報 第8号
令和4年11月15日

実りの秋

校長 板垣 章子

「あら、きれいな菊ねえ」

学校のフェンスに沿ってブラッと並べた菊を見て、道行く人が声を上げました。4月から始まった菊づくりが、今まさに美しい大輪の花となって秋の風景を彩っています。70鉢にも及ぶ菊花は、「川戸故郷づくりの会」の皆様と小中学校の児童生徒や教職員の協力の証です。今年は久しぶりに公民館や近隣の施設などにも分けて飾らせていただいています。

10月22日には、合唱コンクールを主な内容とする「碧祭」が行われました。新型コロナウイルス感染症の影響で、思うように歌唱練習ができなかった年月を乗り越え、今年度は2年ぶりに青葉の森公園芸術文化ホールでの開催となりました。それでも本番までの道のりは険しく、大ホールで披露できるような合唱を完成させるために、どのクラスもさまざまな苦勞がありました。しかし最後は、仲間を信じ、迷いを捨て、大勢の観客が見ている中でしっかりと心のこもった合唱を披露することができました。特に3年生の完成度はすばらしく、下級生にとっては来年の目標が明確に定まったことと思います。講師としてお招きした先生からも、お褒めの言葉をたくさんいただくことができました。

スポーツの分野においても、本校の女子バスケットボール部が新人戦の県大会に出場するなど、活躍が見られました。南房総市で行われた試合は、全国大会にも出場するような強豪校が相手でした。残念ながら勝利することはできませんでしたが、川戸中は1年生がほとんどを占める若いチームでありながらも臆することなく善戦し、これからの成長を予感させるすばらしい戦いぶりでした。

さらに、1学年のマザー牧場への日帰り校外学習や、C組の千葉市少年自然の家への宿泊学習など、大きな行事も行われました。さわやかな秋晴れに恵まれ、自然に抱かれたそれぞれの地で、川戸中生は立派に学びを深めることができました。

季節が進み、朝の登校時は空気がキリッと冷えてきています。厳しい冬に立ち向かうかのように、進路の三者面談を終えた3年生の表情も一層引き締まってきました。1、2年生も中間テストに向けて、自分との静かな戦いが始まります。それぞれの学年の生徒たちが、さまざまな立場から「今」という時を充実させられるように、支えていきたいと思ひます。